



TITLE:

ケトラー直後の英佛統計學(二)

AUTHOR(S):

財部, 靜治

CITATION:

財部, 靜治. ケトラー直後の英佛統計學(二). 經濟論叢 1933, 36(3): 480-494

ISSUE DATE:

1933-03-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130295>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

叢論經濟

號三第

卷六十三第

行發日一月三年八和昭

論叢

法人所得の累進課税・・・・・・・・・・法學博士 神戸 正雄
純生産力について・・・・・・・・・・文學博士 高田 保馬
ケトリー直後の英佛統計學・・・・・・・・法學博士 財部 靜治

時論

地方財政調整交付金を批判す・・・・・・・・經濟學博士 沙見 三郎

研究

農民離村とゴルツ法則・・・・・・・・・・經濟學士 八木芳之助
均一値段營業に就て・・・・・・・・・・經濟學士 大塚 一朗
中央銀行協力の發展に就いて・・・・・・・・經濟學士 松岡 孝兒

說苑

福岡藩育子策再論・・・・・・・・・・經濟學博士 本庄榮治郎
漁業組合の經營・・・・・・・・・・經濟學士 蜷川 虎三
獨逸及佛蘭西の所得税・・・・・・・・・・經濟學士 柏井 象雄

附錄

新着外國經濟雜誌主要論題

（禁轉載）

ケトレー直後の英佛統計學 (二)

財 部 靜 治

三

Block に至る迄の佛國諸統計學者中、理論家としての意義隨一とせらるるは Pierre Armand Dufau (一七九五—一八七七) なり、巴里盲人院長たり之が適切なる管理問題に付諸著を草したり、諸國々情に關する一叢書の共編にも關與せる後、一八四〇年には「統計學論」Traité de statistique, ou théorie de l'étude des lois d'après lesquelles se développent les faits sociaux; suivi d'un essai de statistique *physique et morale* de la population française を著し、次いで一層出色せる研究として De la méthode d'observation dans son application aux sciences morales et politiques, 1866 を公けにしたり、統計學を諸社會事實繼起の法則研究に限れるを以て、統計學の對象觀上ケトレーと説を異にしたり、その根本觀は次の如し、即ち人倫界の諸事實は自然界の諸事實同様、永續的常軌的原因の產物たり、その原因の影響は法則に則りて現はる、唯是等の法則は人の理性により直接には認識されずとするも、その理由は可變又偶然の幾多事情が人倫界に共作することに歸すべし、されど考察を續けんか、是等可變の諸元素は、同一事實の頻繁なる反覆につれて惹起さる

ること、從ひてその事實の何れにも原因結果の本源關聯あるは、立證さるべきことを示す、此目的上類同事實の多例は考察又解析せらるるを要す、人倫に屬する事實の數多に此方法を應用することにより、一學問即ち統計學は成立す、諸事實は計數により示さるるを要す、之につきて計算を遂げ、その學問に實證的性質を備はらしめんがために然り、而してその計算により中數又は平均數に達し、二數の比較により比例を生ず、統計學により考察すべき計數は、市民社會、産業社會又は政治社會より仰ぐとせり、而して氏は統計學の概念を説ける後、統計學と地理、政治算術及經濟學との關係を論じ、就中政治算術は之と區別せらるべしとして、注目すべき所説を附したり、惟へらく統計學と政治算術との間に、實際の提携なきは拒み難き所たり、何れにしても二者はその出發點を同じうするも、後者は特殊の途を採りて進むべく、統計學の範圍外に屬すべき解決に到達せんとするがために、之と全然區別せらるべし、例令ば人口動態の諸表を比較吟味し、幾歲かの男又は女に付、一時代又は一地方に於ける相對的命數を決定せんとするは、統計學のことたり、されど政治算術に於て人の生命に關する保險に付、理論上の眞原則を究明せんとする目的の下、勵精すべき際には、右の如き吟味は政治算術より遠かるべしと、按するに政治算術としてその眼中に宿せる所、特に意義を變へたる後世の分に屬するがために、かかる明辯を施せるものなるべし、その外氏は同じく一般統計學理に關する初篇中、(一四四—一五二頁にはその諸普通原理の要綱を再録せり)佛國にては古くより愛用されし着色統計地圖 *Cartes ombres* (之が使用者の例とし

て氏は Guerry 以外に、一八一六乃至一九年に於ける「大英遊記の著者男 Charles Dupin 及一八三六年に於ける「佛國人口統計論」の著者伯 d'Angerville を挙げたり）の採用を可なりとせず、そは曖昧又不明の諸觀念 idées vagues et peu nettes を人心に傳へ得るに過ぎずとせり、同書第二篇中氏は自ら定めたる諸規則を應用し、佛の人口（身的及心的諸狀態を含む）領土（農工商業等に及ぼさる）及國家に關する諸事實を究むるの意ありしも、充分なる材料不備のため、その研究の最終二區分を抛つの外なかりきとせり、同書は四一年巴里の學士院より賞金を受けたり。

Alexandre Moreau de Jonnés (一七九八—一八七〇 Remes に生れ巴里に死す) は十四歳にして志願兵となり、一七九九乃至一八一五年中英蘭に俘虜たり、平和締結後統計學に専心することとなれり、統計に就き官廳の幾多刊行物主幹に當れる以外に、佛國農業、工業及商業、大英及西班牙の國情に關する諸著者あり、今特に舉げんと欲するは Statistique des peuples de l'antiquité, 2. vols. 1851 並に前にも引說せる Elements de statistique, 1849, 2. éd. 1856 なり、夫れ本編所說の諸學者活躍の時代を以て熱中時代とすべきは、統計學の研鑽と行政統計の進運と提携して切磋したりとするの意味によるも亦然り、而して右兩面の期待を一身に兼攝して多少の功績を樹てたる人物は、その當時以後各國に珍しからず (Heuschling, l. c. p. 5 には行政統計の編成及統制上當時の代表人物として、英の Porter 獨の Guernig 普の Dienerici 田威里の Hennann と共に氏を挙げたり) とすべき所なるが、就中此時代に異彩を放ちし者は恰も Moreau de Jonnés なり、以下佛國行政統計の發達を瞥見して、聊かそ

8) cf. Haushofer, op. cit., SS. 17, 18; v. Ottingen, op. cit., S. 29 n.; E. Castelet, Art. "Dufau" in Palgrave's Dict.; Heuschling, Bibliographie historique de la statistique en France, 1851 p. 30.

の片影を窺はんと欲す⁹⁾。

王政は官廳統計の網を張り廻はすに便なりとすべきものも存すべし、されど公文書秘の習風打破を叫ぶべきは、元來自由民政思想にあり、佛にては Quesnay の友たり、經濟自由を謳歌せる名句爲すに任せよ成行き次第を言出せりとせらるる de Gournay は、一七六六年晩近の統計局に當るべき情報局の設置を提議し、次いで Necker も同意見を持せるが如きも、固有の統計局を一七九六年眞實に組織したるの功は、内務大臣 François de Neufchâteau に歸すべし、此役所がその以前に於ける同種のものと同違せる點は、後者が地方官 *intendants* (*préfets*) その他の吏員より上官に差出せる報告その他の文書を蒐集排列し、虞らくは又利用し盡さんとせるに反し、全國統計編成のため必要な素材の拔萃に、直接當るの任務を託せられたるにあり、同統計局は *Comptoir* により擴張せられ、一八〇一年 Jacques Peuchet は全國統計編成の一仕組特に地方官により記入されべき様式を立案するの命令を同人より受けたり、恰も之とその歳を同じうして内大臣 Lucien Bonaparte が、人口實查施行の命令を發し、二ヶ月の短時日内に之を完成すべしとし、頗る不良の結果を挙げしも、同體裁の文書としては一八二一年に至る唯一のものたりしたため、重んずべしとせらるるに對し注目すべき所なり、即ち右地方官より報告さるべき所は、一新 *Enguête* 編成の素材に供せらるべきものたりき、そは完了を告げず、寧ろ別に P. E. Herbin の主幹により一八〇三年來刊行されし *Statistique générale et particulière de la France et de ses colonies*

9) cf. A. Courtois, Art. "Moreau de Jonnés" in Palgrave's Dict; Heuschling, op. cit., p. 34.

(7 vols., atlas, 1 vol. 1803-1804) を見る¹⁰⁾となりしが、それは Peuchet 自身の著書 *Statistique élémentaire de la France*, contenant les principes de cette science et leur application à l'analyse de la richesse, des forces et de la puissance de l'empire français; à l'usage des personnes qui se destinent à l'étude de l'administration, 1805 に於けると同様、右の調査表を引かず、右の兩者共に地方官の報告を利用したらんとするに拘はらず然りとす。

統計てふ語は既に、一七八九年來佛に使用され、同國にても亦間もなく興隆の氣運を迎へたり政府は計數的調査に好意を寄せ、Chaptal は統計のため特別の部を内務省内に設け、一八一九年には「佛國工業」に關する二冊を出し、それは事實上その統計を授く、Napoleon I. が St. Hélène の孤島に於て自負しつつ、統計を「物の豫算」le budget des choses と呼べるは有名なり、(La Cases による同島追懷錄の所報とせらるゝ所によるに、皇帝は政治統計を耽讀し、この新學問の進歩及效用を可なり賞揚し、その語によれば真相を明かにし、判斷及決定を下すの料として至適すとせり、統計を物の豫算と呼びつゝ又戯れて之に附言し「豫算なくんば安全なし」sans budget point de salut とせり) かかる時運に拘はらず右官廳統計の發端たる内務省統計部は、廣き範圍に及ばされたる前記 Herbin の報告集以外に、發行せる所年刊 *Exposé de la situation de l'empire* に過ぎず、而もそれは一八一四及一五年の政治的動亂に妨げられて續刊を見ざりき、復古政府の下一八一八年陸軍省は軍隊徵募に關し、興味深く又有用なる統計を始めた、一八一九年關稅中央官廳は貨物輸出入の統計に關する一局を再設したり、それは後に月次年次

10) cf. Block, op. cit., pp. 26, 27; Bertillon, Cours élémentaire de statistique administrative, 1895, p. 28.

及毎十年要覽を刊行し令名を馳せし所なり、一八二二年には第二回の人口實查行はれ、一八二五年には統計學理の展開に大影響を及ぶしたる、司法統計（最初は刑事少しく遅れて民商事に關するもの）の創刊を見たり、そは次々にGuerry de Champneuf, Arondeau 及三十年間に亘りÉmile Yvernèsにより主宰せられたり、その間巴里市經常統計も一八一七年伯Chabrolの命により再興されしが、佛の中央統計機關 *le Bureau de Statistique générale* は一八三四年に設置せられ、商務省所屬とせられたり、之より稍以前に實現したる英 *Board of trade* の創設を、大に賞讃したる商務大臣Thiersの創意に成れる所なり、その初代局長に擧げられしは取りも直さずMoreau de Jonnésなり、一八三四乃至五二年の十八年間その地位を占め、その最初出版物は一八三五年にあり、（財政に關す）爾來 *Documents statistiques* てふ名目下に公けにせらる、就中人口動態、農業（一八四〇—四二年の *Enquête*）工業（四六—四八年の *Enquête*）學問的觀點より取扱はれたる人口實查（その行政的事務部は内務省所管たり、一八五一年年齢別を伴ふ最初の人口實查を遂ぐ）及重要なる他の若干事項（特に一八三八年外國貿易に關するもの）を含む、凡て四つ切版大本十二冊より成り、是等報告書により同機關は間もなく商務省に於ける重要部の一つとなれり、一八四八年の政變と共に農工業に就き新たなる特別委員調査を遂ぐるの議成り、その實施は巴里の工業に就きてのみ遂げられし所なるも、少くともその調査案は氏の考案と考へ得べしとせらる。茲に尙併せて注意すべきは、特殊統計のためにする一局として同じ商務省に屬せる *Bureau des subsistances* あり、食料の生産代價及交易（輸入）特に穀物

及家畜（特に肉の消費）に關する夥しき材料を年々蒐集し、官業省 *Le ministère des travaux publics* は鑛山に付一八四〇年に設けられたる統計局（四七年來有名なる F. Le Play 主宰）鐵道に付一八四七年に設けられたる統計局を有し、（七九年來同省より年刊統計圖表 *l'album de statistique graphique* の發行を見るに至りしことを特記すべし）教育統計に付ては七六年常設統計機關設置され、大藏省には七七年來統計中央機關設けられたることなり。¹¹⁾

統計學者として名聲を擧げし以外に、諸自然科學特に植物學に盡す所多かりしは、後世知名となりし統計學者 J. Bertillon の祖父に當る (cf. Bertillon, l. c. p. 436) Achille Guillard (一七九一—一八七六) なり、經濟研究上重んずべく苦心の痕明かなりとすべきその著比較民文 *Éléments de statistique humaine ou démographie comparée*. 1855 は、今尙國際統計院の議事等に依然として使用さるる名目「民文」の提唱により、佛蘭西以外の諸國にもその名を喧傳せらるる所なり、爾來同國及伊にてはその亞流尠からずとすべきが如く、人口統計以外身心兩面に亘る諸能力等凡て人間に關する諸方面の統計的敘事は、民文に注ぎ込むべしと思惟せらる、同著は叙説の調枯淡に失し透徹を缺くの嫌なしとせず、從ひて Wappäus の如きは同著が期する所頗る多く、大なる計畫及抱負を擁して現はれしに拘はらず、要するに銜學者流の非科學的の研究なりと酷評し、民文てふ名目に就きても、それは統計學の一部即ち人口統計論に限り之を使用すること望ましかれ、否此用法によりてさへ不完全不明確を免がれざるを以て、寧ろ之を學問より斥ざるを可とせんとしたり。夫れ統計

11) cf. Block, op. cit., pp. 27-29, Bertillon. 28. 29; Meitzen, op. cit., S. 36

學理及統計行政は割合に早く國際協調の運動を生じ、又その方面に相當の事績を舉げ得たりとすべき所なり、而も亦積年傳統の學風は爭はれず、理論上の構想、叙説の結構及語法は學者國を異にするにより、その特色を發揮すとすべきものあり、こは恰も民文に關する佛伊學者の取扱ひ上その一著例を發見すべき所なり、その通念によらんか、算法衆庶類纂とも謂はば言ひ得べきものあり、かくて例令ば Bertillon, I. c. p. 436. 及一八八一年 Genève に於ける國際衛生及民文會議に於ける同人の Programme de l'enseignement de la démographie によるに民文は人間渾一體の研究なり、その一團が如何なる元素より成り、如何にして活現し、如何に更新するかを知曉するにあり、その主たる研究方便は統計にありとし、その著書四三六乃至五六〇頁に亘る之が叙説中には道德統計論を包括し、又 Block, I. c. p. 88. には實學としての統計學を以て、一國民又は一般に一人口群の政治的經濟的及社會的状況の叙説なりとし、そは或は民文と呼ぼるとし、その著書中應用編一名民文の題下(四二一—五六二頁)に人口統計、道德統計、文教及初等教育、經濟及社會統計の四章を分ちたり。因云、同國學者により好みて使用せらるる語應用統計論中取扱はるる題目が、學勢の變により如何にその趣を異にするかを示すの一助として、近著 Lucien March, Les Principes de la Méthode Statistique. 1930 中應用編に何を收めしかを示さんか、(イ)諸元素の等級及要度による比較、(ロ)等級を不問に付せる計數的諸元素比較、(ハ)試驗的標本その代用的價值、(ニ)共變交聯共起、(ホ)指數、(ヘ)自然科學に於ける應用、(ヘ)實業に於ける應用、(ト)生

産原價の研究、(チ)貸借對照研究、(リ)豫斷の九章に分ちたり、一驚を喫すべきは豈國際政治上の變に限らん哉。若し夫れ伊太利學者の用例に就きては別稿に譲る)されば Wappäus その他獨逸學者の酷評に累はされつつ、始めより輕侮の念を以て右大家の注目すべき一力作に臨まんとするは、寛裕克く右の如き特色を玩味せんとするの趣旨に、協へりとなすを得ず、現に Bertillon が評せる如く、統計常理を發見するの術は、諸計數の評價並に論理的係數及有用中數算定の方法に於けると異り、嚴密なる規則に則りて行はるとすべきことなし、それは統計學者として自から觀測者たるの資質 *qualités d'observateur* を展はすの要を告ぐべき所にして、恰もその資質は讀書によりて修得さるべきことならず、觀測及奧義解釋の術に達するの良方便は、虞らくは尙暫時の間諸自然科學の實驗室に移さるべし、傑出せる幾多統計學者例令ば Villermé, William Farr, Berg, Guillard, 父(Louis A.) Bertillon (一八二一—八三)等が、醫學者又は自然科學者たりしや、疑ひもなく之が爲めなりとすべき事由は、諸國に於て洽なく實感され得べき所なるを以て、特に之を想はずんば非るなり。¹²⁾ その外 Guillard が新語 *Natalité* (出生に付) cf. *Statistique humaine*, p. 159ss.; Bertillon, l. c. p. 474) *Enfants frustra-nés* (未成年にして死せる子に付) cf. Bertillon, l. c. p. 526) *Vitalité* (中壽の名稱として然り、但し此の用例は夙に一七四二年 *Keeseboom* に就きて之を見る) cf. Block, l. c., p. 189 拙著論綱再版五六〇頁)等を考案せるは、父 Bertillon が新語 *Nuptialité ou matrimonialité* (人口に對する婚姻數比率に付) ^{Ma} cf. Bertillon, l. c. p. 463) *Martinatalité* (死産を含めるものとしての出生に付死産) cf. Bertillon, l. c. p. 491) を提唱せると

12) cf. Bertillon, op. cit., p. 120; Wappäus, Einleitung etc. SS. 118, 119.

共に、注目を値ひすべき所たり、そは現代の所謂新人により兒戯に類すとの譏りを佑ふの、虞を宿すとすべき事ながら、一部の統計學者には隠れたる一大影響を及ぼせし所なり。

有名なる統計學者及經濟學者たり、又佛國官廳統計の長官として大功績を樹てたる M. Alfred Legoyt (一八一五—八五) は、精確なる計數使用上傑出す、特にその萬國比較刑事統計、歐洲に於ける諸職業別の統計的闡明は夙に注目を惹きたり、その處世の初め一法曹家として立ちしも、間もなく官職に就き内務省に入れり、一八三九年既に政府の要職を占めしが、五二年 Moreau de Jonés の後を承けて全佛統計局長となり、高齢に達する迄その地位を續けたり、氏はその職にありて幾多の有用なる業績を挙げしが、その中には後世迄繼承されたる農業及工業統計の手廣き編成を含む、その著書特に晩年に屬するものの中舉ぐべきは佛國統計論 (一八五七—六八年中數回に亘る) 二大冊の佛蘭西及外國人 *La France et l'étranger*. 1869 獨逸帝國實勢 *Les Forces matérielles de l'empire d'Allemagne*. 1877 古今自殺考 *La suicide ancien et moderne*. 1881 なり、夫れ實地經濟家特に農界より精確なる申告を徴するの困難は、敢て封建の世に限らず軌近國家にありても、諸國行政統計上洽なく經驗されたる所なり、佛國にありても前任長官により一八四〇年の交次いで又一八五二年農事統計の試みを見しが、その結果は満足とは想はれざりき、されど一八六二年調査の報告にありては、その結果の漸進的信賴價值に付自信ありとして、その主宰者 Legoyt により告白せらる、その報告 *Agriculture. Résultats généraux de l'enquête décennale de 1862, 1868*

は、耕作面積、諸作物、一ヘクタール當り種子の分量、關係年次及一平均年次に於ける生産高、代價、總產物の價額、賃銀等を示したり。慣例に従ひて計畫されし一八七二年の調査は、七〇年普佛戰爭の結果として行はれざりしも、次の一八八二年に於ける毎十年調査報告書（一八八七年公表 Tisserand 署名）は、その以前に於ける實査の先例を襲ひたり、唯その調査にありても亦著しき技術上の進歩は窺はる、即ち例令キヤントンば各州よりの申告書は、今や複式に記入せられ、就中一組の様式は中央に送附せられ、堆積されたる、本源材料は同所にて所定の仕方により分彙されたり、之より先き同國にては官廳統計振作の氣運著しく、現に一八七六年の人口實査にありても、その基本調査上所帶票の補足として個別票 *bulletins* を使用し、集中整理の方針に向ひ一步を進め、結局一九〇一年同方針の完全實現を見るに至るの緒を開きしあり、從來の同國官廳統計は概して分散整理の方法を採用し、幾多の機關は統計につき各々特殊の職務を帶び、特に行政統計上繼子扱ひされたる農事統計は、此仕組の下不適任なる役人がその場凌ぎに合作せるため、その素材料は專擅又皮相の見積りを本とし供給せらるるの弊ありしもの、今や改善の氣運を迎ふるに至れり、之がため視取れる諸結果の修正を可能ならしめ、又中央機關をして一層行届ける査定に當らしむるを得たり。¹³⁾茲に尙附言すべきは右農事調査の前後に及び、その當時振興の氣運に富みし萬國統計會議上、圖表統計に興せるの一證左視すべきもの乎、佛國にては統計事實の圖表表章普通に行はるることとなれり、官業省が七九年來一描畫帖を年刊するに至りしは前に一言せるが、別

13) cf. Westergaard, Contributions etc. pp, 185-6, 192, 196, 243; Koren, The History of Statistics, 1918, p. 299.

に一描畫帳は農事統計の諸題目に關し、多かれ少かれ啓蒙的な着色圖表特に巧みな地圖表表章を收めたり、(Album de statistique agricole, Résultats généraux de l'enquête décennale de 1882. 1889) 此種の冊子は學問上の意義多きを得ざるべく、夙に一八二九年 Holzgethan が、それは遊戲に外ならず深く學べる者には鎖事に過ぎざるべしと(論綱再版三三三頁参照)評せるが如き、一理ありとすべき所なるべきも、會議博覽會その他の席上に於て、統計事項に關する世人の興味を喚起することに資し得べきや誣ふべからず、宜なる哉圖表の一種としての實物圖形利用を、非科學的として曾て排斥したる(論綱再版三〇二頁参照) v. Mayr も、一九〇七年の論文「統計地圖表の方法及技術」並にその理論統計學再版中に謂へる如く、統計圖形帖はその後著しく發達し統計圖形 statistische Bilder と稱呼は近年概して圖表法に代るものとして、サローンフェーヒ會場用となり始めたり、(現在發行中の月刊雜誌 Deutsch-land には殆んど毎號政治、經濟及社會に關する統計圖形を收め、又かゝる表章目的のため特殊の雜誌 Zahl. bilder あることを想へ)そはいとど不定の邇眞を伴へりとは言へ明確に exakt nur mit sehr unsicherer Annäherung 大小等級別を判斷せしむべきものたり、官廳統計さへも圖形帖の完全なるを編むこと容易ならざるに拘はらず、個別の圖形は之により採用さる、それは統計廣告の獨特なる一刷新なり、繪に依ること多き貼板に比すべき所なり、統計に通ぜざる一般公衆並に統計に興味を有するもその計數を煩はしとなす者に對し、かかる廣告により及ぼさるる效果に就きては、寧ろ寛大に議すべき事由あり、從ひて偏執なる表章法に流れず適度に之を用ゐるは、眞面目なる統計的研究及官廳刊行物

にありても亦恕すべし、「開化畫家が統計表の通辯人」となり、「統計法が數學の範圍より國民經濟の大域内に移るに隨ひ、數學の符牒は消え行けり」と、輓近出色の一統計學者 H. Wolf が夙に一九一三年萊府の建築博覽會に際し、Führer für die statistischen Bilder を編纂しつつ附說せるは、一面の理由を有すと謂ふべし。因に尙附言すべきは一八五五年の巴里に於ける第二回萬國統計會議が、多くの點に付第一回のブルッセル會議に似たるも、公的性質が前回に於けるよりも一層強められしは、同報告書の題中殊更に Publié par les ordres de S. E. M. Roucher, Ministre de l'Agriculture, du commerce et des travaux publics, président du congrès, par les soins de M. A. Legoyt, chef du bureau de la statistique générale de France, secrétaire du congrès と明記せるによりても明かなり。¹⁴⁾

經濟學者文筆家たると共に統計學者たり、佛國統計學の普及に大功績を擧げたりとなし得べきは Maurice (Moritz) Block (一八二六—一九〇一) なり、伯林に生れしも幼にして兩親と共に巴里に移り佛及獨にて教育を受け、成人たるに及び歸化して佛人となれり、一八四三乃至六一年中農工商務省統計部に奉職し、一八八〇年には學院 Académie des sciences morales et politiques の會員に選ばれたり。統計學の範圍に於ける不倦の行者たりし Block は四四年間 (一八五六—一九〇〇) 經濟學統計學年報 Annuaire de l'économie pol. et de statistique を編輯し、又歐洲の大多數國語に通じたる氏は、一八六六年來その臨終に至る迄經濟學雜誌 Journal des économistes のため、經

14) cf. Westergaard, Contributions etc., pp. 177, 186, 196, 197.; v. Mayr, Theoretische Statistik, 2. A. 1914 S. 173. Anm.

濟に關する定期刊行物の四季評論 *Revue des principales publications périodiques de l'étranger* を草し、そは Cossa により「達觀又明快なる理解力の一模範」*a model of insight and of vivid comprehension* と推稱せられたり、著書としては十三ヶ國語に譯されたる小經濟學 *Petit manuel d'économie pratique*. 1873 參考用としての諸辭書 *Dictionnaire de l'administration française*. 4 éd. 1898; *Dictionnaire générale de la politique*. 2 éd. 2 vol. 1874; *Petit dictionnaire politique et social*. 1896 以外、統計に關しては上來屢々引用せる統計學教科書の外 *Statistique de la France comparée avec les divers pays de l'Europe*. 2 éd. 2 vol. 1875 の一著は有名なり、又彼はその博大なる讀書及その一生に亘る外國思想咀嚼の果實を要約して經濟學の進歩 *Progrès de la science économique* depuis Adam Smith. 2 éd. 2 vol. 1890 et 1897 を著したり、同書は Cossa により屢々當時の獨逸經濟學派に下せる酷評、(J. G. Cornclle-Seneuil を聯想せよ)、並に壤地利學派に寄せたる不斷の賞讃を以てその特色とせられしも獨逸に學びし米の Seligman 教授によりては *a work which in some respects compares with the best production of recent times in any country* と迄賞揚せられたる所たり、その述作に採用せる目論見上、諸題目(自然、勞働、資本、信用等)を別々の一章として取扱ひたり、最初先づ學問により達せられたる現狀を説き、終りに主たる佛及外國經濟學者の見解は、大部分その人自身による文句の儘彙集せらる、明晰又精確なる一思想家にして、辛辣なる諸謔を交へし氏は、その少年時代に行はれし學說を忠實に續け、道理を以て感情又倫理に比し、

一層安全なる案内視したり、¹⁵⁾ 尙氏が特にその興味を惹ける統計の比較研究に付一言せんに、當時漸く諸國統計上全國的資料に關する信賴價值を増し、而して恰も亦英佛特に英の經濟統計に於けると同様 統計觀察の分量大に増加せるため、諸國よりせる結果の纂要及比較を試むるは自然の勢となれり、かくて政治算術の時代に於けると同様、否一層大なる成功を收めつつ、歐洲否全世界の總人口を發見せんとするの諸試みを見たり、されど最初その困難は大なりき、されば G. F. Foss は一八五七年の初版「比較統計論」中、諸國人口比較を遂ぐるの勇氣ありしも、その當時英國商務省統計部長たりし H. F. Riller v. Brachell の著 *Die Staaten Europas*, 1853 (増訂五版一九〇七年) は、歐人口の統計を示すことを肯んぜず、Blick も亦之に該當すべき「歐洲諸國々勢比較」*Puissance comparée des divers états de l'Europe*. 1862 中何等同種の試みに出でざりき、而も亦氏による比較研究の精神は依然として相承又發揮せられ、*L'Europe politique et sociale*. 1869 の一著を見たる後、更に前記の比較研究佛蘭西統計論を七五年に生みたり、こは一部の獨逸統計學者により誤れる計數に據りて壯語し、全く信を措くに足らず」と (cf. Öttingen, *Moralstatistik*. 3. A. 30; Walcher, *Statistik*, S. 23) やられし Mich. G. Mulhall. *The Progress of the World*. 1880 及初版 *Dictionary of Statistics*. 1884 が、同じ氣運に乘じ稍遅れて著せられしを想ひ、又前に Legoyt に牽聯し圖表に關して説ける所を想ひつつ反省する所なき能はず。¹⁶⁾ (つづく)

15) cf. Castelet, M. Block in Palgraves' Dict. Appendix; Bliss, *The new Encyclopedia of Social Reform*, 1908, p. 122; L. Cossa, *An Introduction to the Study of P. E.* 1873, pp. 375, 376; Gide and Rist, *A History of Ec. Doctrines*, p. 375.

16) cf. Westergaard, *Contributions etc.* pp. 209, 210.